

令和7年度品川区いじめ根絶協議会（第1回）

議事録要旨

1 日時

令和7年7月16日（水）午後2時から午後3時30分まで

2 会場

教育文化会館 第1スタジオ

3 内容

- (1) 品川区教育委員会教育長挨拶
- (2) 委員委嘱
- (3) 委員長指名
明石委員を委員長に指名した。
- (4) ○報告
今年度のいじめ対策について
ア 教育委員会事務局より
イ 区長部局より
○協議
テーマ「『子どもたちの笑顔でつながる共生社会』の実現に向けて」
～子どもが立ち直る力を育むために、学校・家庭・地域ができること～
- (5) 品川区教育委員会教育次長挨拶

4 報告要旨

- (1) いじめに関する説明と品川区の現状等について（教育総合支援センター指導主事）
 - ・いじめの定義、類型、解消の条件、いじめ重大事態について説明
 - ・品川区のいじめの認知件数、いじめ重大事態の発生件数について説明
- (2) 品川区教育委員会の取組について（教育総合支援センター指導主事）
 - ・いじめ予防プログラム（授業、研修、調査）について説明
 - ・品川区教育ビジョンについて説明
- (3) 区長部局（いじめ相談対策室）の取組について（総務課コンプライアンス推進担当課長）
 - ・いじめ相談対策室の取組実績の説明
 - ・教育委員会を含む関係機関との連携体制について説明
 - ・いじめ予防啓発前講座について説明
- (4) 質疑応答
（質問1）区長部局と教育委員会の連携は月にどのくらい行われているのか。
回答：（総務課コンプライアンス担当課長）
 - ・総務課いじめ対策相談室の担当課長や担当者等と、教育総合支援センターセンター長や指導主事・担当者と、毎月1回「いじめ対策協議会」を行い、いじめ相談の対応状況

やいじめ重大事態調査の進捗状況などについて共有している。

(質問2) いじめ重大事態が令和5年度に増加しているのは何故か。また、区長部局と教育委員会の連携のような取組を行うようになったのはどういった経緯か。

回答：(教育総合支援センター長)

- ・いじめの認知といじめ重大事態の認定を法に基づき判断し、積極的に認定した結果14件となった。
- ・令和4年に発生しいじめ重大事態をふまえ、令和5年度当時、区長部局に窓口を設置すべきという第三者委員会の答申が出たこともあり、区の判断で、いじめ対応において、教育委員会と区長部局の連携を図る形を取るようになった。

5 グループ協議

テーマ『子どもたちの笑顔でつながる共生社会』の実現に向けて～子どもが立ち直る力を育むために、学校・家庭・地域ができること～

(1) 協議内容発表

(グループ1)

- ・子どもたちが立ち直る力を育むことが求められている背景として、失敗の経験が少ないということがある。子どもたちに対し「失敗は悪いことではない」という意識がけを行う必要があるのではないか。
- ・児童センターを使って横のつながりをつくっていくなど、子育ての孤立を防ぐ必要がある。お祭りなど地域で活動する場が増えるような取組を行い、地域の中で横のつながりをもてるよう、行政や地域から積極的に発信していく。
- ・学校と保護者、地域の信頼関係が大切。子どもたちを見守っていきましょうという雰囲気をもみんなでつくっていけるとよい。

(グループ2)

- ・いじめの定義が明確になった一方、範囲も広がっているところに対応の難しさがある。
- ・何か起きたとき、自己肯定感が高いと対処できる一方、自信がないところを言われると気持ちが下がってしまうこともある。レジリエンスは回復力と使われることがあるが、社会的な意味での「免疫力」と捉えると分かりやすいのではないか。
- ・子どもたちが自己肯定感を育むために成功体験を重ねること、適切な範囲での失敗経験、周囲のフォロー体制を整えておくことなどが必要ではないか。

(グループ3)

- ・現代の子どもたちは、正解へのアクセスができる一方で、あまり失敗をしていないという側面もある。そのため、失敗をした時に自己肯定感が低くなってしまわないか。
- ・子どもたちが興味をもてることを探すことや、家庭と連携し、日頃から積極的に褒めるなど、自己肯定感を育むことが必要だと考える。
- ・いじめを把握した際には、事実や背景、ストレスの原因など多方面から課題を把握し支援すること、大人も一緒に考えフォローする姿勢を見せることが大切である。

(グループ4)

- ・レジリエンスを育む上で、厳しい指導より優しく褒め育てることが言われるようになってきた。様々なことへの挑戦を促す前向きな指導をすることも大切ではないか。

・家庭の状況が見えづらくなってきている。また、多様化している。区で行う家庭へのアウトリーチ事業を活かすなど家庭の様子を把握して、何か困った時に支えられるような仕組みを作るといいのではないか。

(2) まとめ（明石委員長）

・区が取組として、教育委員会と区長部局の連携のような横の事業を、多様な形で工夫して実施し、より深めてほしい。

・いじめの早期対応において難しいところは、子どもの訴えを把握すること。学校における取組として、1人1台端末を用いたいじめ調査ツールをより活用し、1人1人の子どもたちの声を適切に把握し、対応してほしい。また、「こういう取組を行ったら、このような成果があった」というエビデンスを示すとさらに良いと考える。

・多様性とインクルーシブということは、様々な文化や違いを認めるということ。学校を含め家庭と地域社会のトライアングルがないと難しいと考える。地域の方々の力をかりて、品川区の具体的な施策につなげてほしい。